

金沢大学附属病院血液内科にて採血、骨髄検査 を受けた患者さんへ 研究協力のお願について

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の相談窓口へお問い合わせ下さい。ご連絡がない場合においては、ご了承をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この研究は、倫理審査委員会の審査を受け、研究責任者の所属機関の長の承認を得て行っているものです。

1. 研究の対象

2017 年 1 月～2024 年 12 月に金沢大学附属病院血液内科を受診され、血液のがんが診断された方、もしくは強く疑われる方で、採血や骨髄検査を受けられた方

2. 研究の概要

研究課題名 造血器腫瘍増悪時における生体信号の揺らぎに着目した数学理論（動的ネットワークバイオマーカー理論）の有用性に関する検討

研究期間 承認日 ～2025 年 3 月 31 日

目標数 全体 100 例（金沢大学：50 例）

血液の腫瘍（がん）は慢性骨髄性白血病のように特效薬の出現で、治療成績が劇的に改善した疾患もありますが、再発や再燃を来すと治療成績が悪くなることが知られています。特に血液の腫瘍（がん）は高齢の方に多いことから、再発や再燃を来した際には治療可能な年齢を過ぎてしまっていることや、併存疾患など治療が困難となることがしばしば経験されます。そこで、これら再発や再燃を早期に見つけ、かつ体への侵襲を少なく検査できる方法の構築が望まれていますため、以下の研究を計画しました。

3. 研究の目的・方法について

今回、我々は特殊な顕微鏡を用いて血液の細胞を観察させて頂き、細胞が出す信号を捉え数学的に解析すること、その際の細胞自体の遺伝子の発現を見ることで、再発や再燃を早期に見つけることが可能か検討したいと考えています。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療の際に得た試料・情報を使用します。

試料 血液 2 ml から分離した白血球、骨髄液 0.5 ml から分離した白血球

情報 年齢、性別、血液・骨髄液検査データ、病歴、化学療法等の治療歴

5. 外部への試料・情報の提供・公表

提供された検体、情報は、金沢大学血液内科又は富山大学血液内科において個人が特定でき

